夏ー君　～ナツキミ～

黒猫と蝶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
夏―君　～ナツキミ～

【Ｎコード】
Ｎ６６５６Ｐ

【作者名】
黒猫と蝶

【あらすじ】
夏の終わりの８月。俺の不思議な物語。

これは、俺の実際にあった出来事です。

暑い、8月のある日。夏休みも終わるということで俺は親戚の叔母さんの家に遊びに来ていた。

母たちが挨拶をしているとき、暇でしょうがなかったので、

「母ちゃん、ちょっくら散歩してくるわ。」

といったのが始まりだった。

「あら、渉ちゃん！そんな事いわなくても高校2年生なんだから黙っていけばいいじゃないのぉ！」

「…、クソババア。いっておかないと起こるくせになぁにが渉ちゃんだ！！矛盾しすぎなんだよ！もう、おまえんとこになんか帰ってくるか！！クソ女！！！」

「…！？！！渉ちゃん！！！！！！」

そうして、俺の嫌悪生活が始まった。

出て行ってから、ババアも知らない森の奥へやってきた。

「…。ふう、ここなら生活できるかな。」

洞窟があったのでそこで火をつけ、休憩することにした。

そして、俺はいつの間にか居眠りをしていたらしい――

「…すいません…？」

「えっ！わ、わぁっ！！」

女の子が俺に馬乗りに…！？どういうことだ？？

「私の秘密基地に、何か御用？」

「あ、君の洞窟だったんだ…。俺、ちょーっとわけありでね。ここに泊まらせてくんない？」

「いいですが…。そういえば、お名前は？」

「お、俺は、這環脊渉（ハワセワタル）高２。」

「私は、涼箕燐（スズミリン）高３です。」

「え…高３？」

「何か？」

「い、いえ…」

そこで、何日か過ごしているうちに燐さんに、俺は惹かれていったんだ。

そして、夏休みもとうに終わった9月頃。

俺は思い切って、告白した。

「りりり、燐さん！！…っ、好きです！付き合ってくれませんか？！」

「…嬉しいです。でも、でもっ…」

「え…？」

「…っ！サヨナラ！！！」

その瞬間、燐さんは雲のように残暑が残る町の中へ消えていった――

（後書き）

恋愛小説第二弾。変な話ですいません。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6656p/

夏一君　～ナツキミ～

2010年12月31日03時39分発行